

日本現代詩大系

第十一卷

日本現代詩大系

第十一卷

河出書房新社

日本現代詩大系 第十一卷

編集

日夏耿之介

山宮 允

矢野峰人

三好達治

中野重治

大岡 信

昭和五十年十二月十日 印刷
昭和五十年十二月十五日 發行

編者 大岡 信

發行者 中島隆之

印刷 中央精版

製本 中央精版

發行所 河出書房新社

東京都千代田区神田小川町三ノ六

電話(〇三)二九二(三七一一)

振替 東京一〇八〇二

目次

非情抄……………	金子光晴	一七
屁のやうな歌抄……………	金子光晴	一八
橋抄……………	岡本潤	二五
笑う死者抄……………	岡本潤	二六
馬抄……………	壺井繁治	三〇
とほうもないねがい抄……………	小野十三郎	三三
垂直旅行抄……………	小野十三郎	三六
鮪に鰯抄……………	山之口貌	四三
馬と風景抄……………	北川冬彦	四七
夜半の目覺めと机の位置抄……………	北川冬彦	四九
北京郊外にて他抄……………	北川冬彦	五二

夕の虹抄……………	堀口大學	五
ユモレスク抄……………	堀口大學	五
駱駝の瘤にまたがつて抄……………	三好達治	五
定本三好達治全詩集抄……………	三好達治	五
月渡る抄……………	丸山 薫	六
そのほか抄……………	竹中 郁	六
風 俗抄……………	近藤 東	六
えびつくとびつく抄……………	近藤 東	六
晩春の日に抄……………	田中冬二	七
葡萄の女抄……………	田中冬二	七
森川義信詩集抄……………	森川義信	七
橋上の人抄……………	鮎川信夫	七
鮎川信夫全詩集(1945~1965)抄……………	鮎川信夫	八
ひとりの女に抄……………	黒田三郎	八

失はれた墓碑銘抄……………	黒田三郎	九
小さなユリと抄……………	黒田三郎	一〇〇
もつと高く抄……………	黒田三郎	一〇五
時代の囚人抄……………	黒田三郎	一〇七
ある日ある時抄……………	黒田三郎	一一一
中桐雅夫詩集抄……………	中桐雅夫	一二三
夢に夢みて抄……………	中桐雅夫	一三三
囚 人 抄……………	三好豊一郎	一二四
三好豊一郎詩集1抄……………	三好豊一郎	一二六
三好豊一郎詩集3抄……………	三好豊一郎	一二四
四千の日と夜抄……………	田村隆一	一二七
言葉のない世界抄……………	田村隆一	一二六
新年の手紙抄……………	田村隆一	一二九
木原孝一詩集(1946~1965)抄……………	木原孝一	一五三

ある時ある場所抄	木原孝一	一六三
北村太郎詩集抄	北村太郎	一六五
高橋宗近詩抄	高橋宗近	一六六
吉本隆明詩集抄	吉本隆明	一六七
衣更着信詩集抄	衣更着信	一九〇
独楽抄	高野喜久雄	一九八
存 在抄	高野喜久雄	二〇一
闇を闇として抄	高野喜久雄	二〇六
高野喜久雄詩集抄	高野喜久雄	二〇八
死の一章をふくむ愛のほめ歌抄	鈴木喜縁	二〇九
日の底抄	菅原克己	二一四
絵の宿題抄	關根 弘	二三三
死んだ鼠抄	關根 弘	二三五
約束したひと抄	關根 弘	二三八

濱田知章詩集抄	濱田知章	二三
濱田知章第三詩集抄	濱田知章	二三
パウロウの鶴抄	長谷川龍生	二五
虎抄	長谷川龍生	二五
長谷川龍生詩集抄	長谷川龍生	二五
不安と遊撃抄	黒田喜夫	二五
地中の武器抄	黒田喜夫	二六
詩と反詩抄	黒田喜夫	二六
木島始詩集抄	木島 始	二六
ペタルの魂抄	木島 始	二六
私の探照灯抄	木島 始	二七
終らないもの抄	井手則雄	二四
天 山抄	谷川 雁	二六
谷川雁詩集抄	谷川 雁	二二

野にかかる虹抄	井上俊夫	六九
井上俊夫詩集抄	井上俊夫	二九四
井上光晴詩集抄	井上光晴	二九六
狼・私たち抄	石川逸子	三〇三
原爆詩集抄	峠 三吉	三〇七
畸型論抄	城 侑	三二
不名誉な生涯抄	城 侑	三五
蒼い馬抄	瀧口雅子	三八
鋼鉄の足抄	瀧口雅子	三三
コルシカの薔薇抄	牧 羊子	三四
人生受難詩集抄	牧 羊子	三五
生徒と鳥抄	高良留美子	三七
場 所抄	高良留美子	三九
見えない地面の上で抄	高良留美子	三一

反河のはじまり抄	北川 透	三三
灰色の壁に抄	福中都生子	三六
南大阪抄	福中都生子	三七
女ざかり抄	福中都生子	三九
やさしい恋うた抄	福中都生子	三九
凍える木抄	松永伍一	四一
海からきた女抄	有馬 敲	四三
原住民の歌抄	長谷川四郎	四六
富士正晴詩集抄	富士正晴	四九
雷 雨抄	井口 浩	五〇
星座の痛み抄	野間 宏	五五
忍耐づよい鳥抄	野間 宏	五八
行く手抄	山田今次	六四
祝算之介詩集抄	祝算之介	六七

専門家は保守的だ抄	片桐ユズル	三六〇
日本風土記抄	金 時鐘	三七三
みえかくれするひと抄	十國 修	三七六
化石になる抄	平光善久	三七九
骨の遺書抄	平光善久	三八一
紙芝居抄	港野喜代子	三八二
魚のことば抄	港野喜代子	三八三
一九五一年の愛の手紙抄	田村正也	三八五
麦と肉と歌抄	田村正也	三八七
春の病歴抄	中野嘉一	三九〇
避雷針と藁屋根の間抄	中野嘉一	三九一
新國誠一詩抄	新國誠一	三九三
声を限りに抄	杉山平一	三九四
地下水抄	丸山 豊	三九七

水上歩抄……………	丸山 豊	三九八
野村英夫全集抄……………	野村英夫	四〇〇
葦の閲歴抄……………	秋谷 豊	四〇三
降誕祭前夜抄……………	秋谷 豊	四〇五
ヒマラヤの狐抄……………	秋谷 豊	四〇九
礫抄……………	牧 章造	四二
毘抄……………	牧 章造	四四
定本竹の思想抄……………	伊藤桂一	四六
伊藤桂一詩集抄……………	伊藤桂一	四二〇
雪つぶて抄……………	小山正孝	四二
逃げ水抄……………	小山正孝	四三
散ル木ノ葉抄……………	小山正孝	四四
山の奥抄……………	小山正孝	四六
鈴木享詩集抄……………	鈴木 享	四三

一角獸抄	西垣 脩	四三五
人体聖堂抄	高田敏子	四三八
藤抄	高田敏子	四四〇
南 極抄	大塚 堯	四四四
生きものの歌抄	磯村英樹	四四九
アザラシ祭り抄	磯村英樹	四五一
したたる太陽抄	磯村英樹	四五三
ゆきずりの女抄	磯村英樹	四五三
水の女抄	磯村英樹	四五五
收穫祭抄	田中清光	四五八
不思議な時計抄	堀内幸枝	四六〇
村のアルバム抄	堀内幸枝	四六三
夕焼が落ちてこようと抄	堀内幸枝	四六五
ひとつの夏 たくさんの夏抄	新川和江	四六六

比喩でなく抄	新川和江	四七〇
海泡石抄	福田陸太郎	四七四
P E R S O N A E 抄	星野徹	四七七
みちのく抄	加藤千晴	四八〇
解説	大岡信	四八三

凡 例

一 本巻収載の対象となった作者・詩書は厖大な数に上ったため、紙数の限度によりすべての詩書は抄出とした。しかしそれらの詩書の全貌を窺うことができるよう、その目次を冒頭に掲げた。

一 それぞれの文末に各詩書の発行年月日・発行所名・判型・頁数および定価を記してその詩書の型態を推測できよう意を尽した。記載中、体裁の個所で148×182等の数字は、横一四八ミリ、縦一八二ミリのことであり、上製・並製本の称呼は、前者はボール厚表紙本綴を、後者は紙薄表紙あるいはフランス装などを表わすものである。また序文・本文・目次等の記載の順序は各詩書の構成によった。

一 排次は原則として同一作者の下にその作者の詩書・詩篇を一括し、単行詩書の発行年代順に配列する方針をとった。

一 収載した詩篇は、原則として初版本を底本として用いたが、作者が初版本に訂正を申し出た場合、および作者が特に底本を指定した場合についてはこの限りではない。

一 語法・用語等については作者の趣味や慣習によるものと考え、若干の詩篇の多少の混乱はそのままにした。ただし印刷上の誤りと認められるものについてはこれを訂正した。

